

平成 22 年 3 月 15 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2007 ～2011

課題番号：19520530

研究課題名 (和文) 小学校における英語教育活動の長期的な効果

研究課題名 (英文) Long-Term Effectiveness of English Language Learning in Elementary Schools

研究代表者

植松 茂男 (UEMATSU SHIGEO)

摂南大学 外国語学部・教授

研究者番号：40288965

研究代表者の専門分野：言語習得論

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育 早期英語教育

キーワード：英語特区、早期英語教育、小学校英語教育活動、英語教育、小中一貫授業

1. 研究計画の概要

小学校英語が中学校以降の英語学習にもたらす、スキル・情意面双方の長期的効果に関する研究報告はこれまで沢山あったが、半数以上が私学一貫校・国立付属校等の特別なケースを対象にしている点で、一般化可能性 (generalizability) が低いと考えられる。本研究では、公立小学校英語教育の効果の検証を、それらの小学校の卒業生が入学する公立中学校で定点観測し、導入学年次と学習時間数による差が、中学校英語教育にどのような影響を及ぼすか検証しようとするものである。

研究目的の1点目は、これまでの漠然とした、「小英経験者」、「小英未経験者」の比較にとどまらない、同一学校、同一テスト・アンケート利用による、客観的でユニークな知見を得ることである。

2点目として、これまで情意アンケートの結果は順序尺度 (ordinal scale) (例：5：強く同意する、4：同意する、3：どちらとも言えない、2：同意しない、1：強く同意しない) による回答を間隔尺度 (interval scale) と見なし、スキルテスト結果 (数値) との相関を調べるのが主流であった。本研究では、アンケート結果をラッシュ分析法 (Rasch Analysis: 順序尺度を間隔尺度に変換) を使い標準化した上で、質問項目信頼性 (item reliability)、及び回答者信頼性 (student reliability)、「天井効果」 (ceiling effect) などチェックしながら統計処理を行った。こうした心理統計学的 (psychometric) な手法を用い、科学的に検証しようとするものである。

3点目に、インタビューテスト結果も、3人のインタビュアーが付けた5段階のスコア

を多相ラッシュ分析法 (Multi-Facet Rasch Analysis) を用いて標準化し、上記の各種信頼性をチェックしたのち、3人の評価者の観点別評価基準の「厳しさ」度合い (rater severity) も補正した上で、統計処理を行い、「評価ゆれ」を極力防ぐ形で検証することである。

2. 研究の進捗状況

研究開始初年度の2007年度は、協力小中学校探し、ならびに各テストの作成から始まり、さらに第1回目のテスト・アンケート等を各学年終了時の2008年度3月無事終えた。

研究2年目の2008年度は、「小学校英語教育の開始学年の低下の影響を同一ポイント (中学校) で定点観測する」という研究目的の、統計データベース構築にほぼ1年かけた。

研究3年目の2009年度は、3月に実施した2度目になる2008学年度 JACE テスト、インタビューテスト、情意アンケート結果を2007学年度分と比較統計分析した。研究仮説としては、2008年度中3生、特に中2生については小学校での履修時間が増えている分、英語スキルスコア、情意スコアが向上していると考えられる。中1生に関しては総履修時間数が同じで、差はないと考えられる。

結果は英語スキルに関しては語彙・文法、リーディング、リスニングの3項目で、中2は3項目全てで2008年度生が2007年度生スコアを「有意に上回った」。中3、中1は3項目全てで「有意差なし」であった。スピーキングテストでは、2008年度生が2007年度生を「有意に上回った」。情意アンケートに関しては、中1、中2、中3学年とも5要因23項目で2008年度生、2007年度生間の有

意差はなかった。さらに英語スキルと情意の相関は学年が上がるにつれて相関関係が増加する傾向が見られる。小学校と中学校のカリキュラムの連携が十分でないことが一因かもしれない。しかし、生徒が中学校での英語学習内容・教授法に徐々に「切り替え」て、適応してゆく様子が見られる。これらの成果は、2009年度分だけで、学術論文4件、並びに学会発表5件(内1件海外)において成果公表・発表した。また3度目に当たる2008学年度 JACE テスト、インタビューテスト、情意アンケートも3月の中旬に完了した。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。
(理由)

本年度は研究3年目にあたり、前半は2009年3月に実施した JACE テスト、インタビューテスト、情意アンケート結果を前年度分と比較する統計分析作業に費やした。その結果をN中学校へ報告すると共に、2011年に迫った小学校英語の完全実施体制作りを視野に入れた早期英語教育のモデルの構築を鋭意進めた。さらに継続的な研究調査が可能になるように、N中学校の先生方はもちろんのこと、寝屋川市教育委員会との関係作りにもさらに力を入れ、さまざまな人間関係の広がりがあった。寝屋川市の英語授業研究大会で公開授業をする英語科の先生に、私の大学に来てもらい演習を実施したりして、相互に恩恵があるような形の研究体制がさらに発展した。その結果、科研費研究の意義が、一層理解され、手厚い協力体制ができたと考える。その結果本研究の情意アンケート結果以外の、寝屋川市独自のアンケート結果も入手できた。豊富な資料から小中連携のあり方、「国際コミュニケーション」の概念の再構築等、問題点が沢山示唆されたと言える。こうした知見を活かして更に充実した研究になるよう進めたい。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 結果をより深く解釈できるように、データを現場の先生方にさらに細かく説明し、コメントや意見をもらい、本研究に質的な視点からアドバイスを与えてもらう。

(2) 授業観察もさらに小中双方で行いたい。「国際コミュニケーション科」授業を小学校で実際体験した中学生の感想も集めたい。

(3) 2010年度には小3開始の学年が入学する。開始学年が与える影響を計れるさらに適切な統計手法を考えたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

①Shigeo Uematsu, "The Effect of English Learning in the Elementary School on Students' English Language Skills and Their Affective Variables at the Junior High Schools" *JACET Journal* 50, pp.(in press) (2010).

②植松茂男「早期英語学習がその後の英語技能に与える影響について(学校間差、性差、英語塾経験等の考察)」*Setsuman Journal of English Education (SJEE)*, 4, pp.105-117 (2010).

③ Shigeo Uematsu, "Reviewing the Research Investigation the Subsequent Effect of English Learning at Elementary Schools in Japan." *SJEE (Setsuman Journal of English Education)*, 3, pp. 51-72, (2009).

④Shigeo Uematsu, "Long-Term Effectiveness of English Language Learning in Elementary Schools (The Japanese Elementary School Context)." *Journal of the Japan Association for Developmental Education*, 4 (1), pp. 108-115, (2009).

⑤植松茂男「台湾の小学校英語教育の現状と課題」*Setsuman Journal of English Education (SJEE)*. 2, pp.167-183, (2008).

[学会発表] (計7件)

①Shigeo Uematsu, "Teaching English at Elementary Schools in Japan." 2010 Cam TESOL (2010.2)

②Shigeo Uematsu, "The Long-term Effectiveness of English Instruction at Elementary Schools." JALT全国大会 (2009.11)

③植松茂男「2011年度からの小学校英語必修化に配慮すべきこと～台湾の早期英語教育を参考に」京都女子大学 招待講演 (2009.11)

④植松茂男「小学校英語教育の長期的効果について The Long-term Effectiveness of English Instruction at Elementary Schools」日本英語教育学会(JACET)2009年全国大会 (2009.9)

⑤植松茂男「特区における小学校英語教育が中学校英語技能・情意面に与える影響について」第9回小学校英語教育学会(JES) (2009.7)

⑥Shigeo Uematsu, "Subsequent Effect of English Learning in the Elementary School at the Junior High School: In Japanese public school context." PacNADE International Conference." University of Hawaii, (2008.9)

⑦植松茂男「台湾の早期英語教育の現状と課題」JACET (大学英語教育学会) 関西支部第2回講演会 (2007.12)